しんらん同人

No,537
3・4 月号

浄土真宗本願寺派 誓願寺
〒171-0052 東京都豊島区南長崎1-3-8
【電話】03-3950-7828 【ホームページ】http://www.seiganji-tokyo.jp/

昔の誓願寺法座風景

篠田和上師（昭和40年頃）

岡本泰雄師（昭和40年頃）

山本仏骨師（昭和50年頃）

熱心なお同行（昭和50年頃）

われも ひかりの うちにあり

誓願寺住職　古賀尚之

この「しんらん同人」3・4月号が皆様のお手元に届くころには、無事退院の運びとなっていることと思っていますが？？？

顧みますと三ケ月前、十二月初旬に風邪をこじらせて、肺炎になり十日間聖母病院に入院いたしました。肺炎は安静と投薬で回復いたしましたが、その際に実施致しました精密検査で、腎臓に2センチ大の腫瘍が発見され、癌の可能性があるので早期に切除したほうが良いとの事。

坊守とも相談した結果。早速手続きをとって、この度の手術となった次第です。

色々な状況の中で印象に残った二点を記載いたします。

第一は、手術について担当医師に尋ねたところ「早期発見なので、術後五年後の生存率は九五％です。」とのお言葉。「ということは、七十六歳まで生きる確率が九五％あるんだ。」と、変に安心した自分に気付き、苦笑いたしました。何か良い方向に思いたかったのでしょうか。

第二は、今死んだら、六歳の孫が悲しむだろうな。これが一番の心配事項でした。どうしたら小さな孫が悲しまない様に説明できるのかなと、随分時間を取って考えましたが、日頃から様々な別れについて話しておくことが大事だとの思い至った次第です。春休みに上京した時に、色々話をしたいと考えております。

春になり体力が回復いたしましたら、更に頑張ってまいりたいとの思いが一杯です。皆様もご自愛下さいませ。

「縁」について

誓願寺住職　古賀 尚之

昭和二十六年千葉県検見川（現・千葉市花見区朝日ケ丘町）にある東京大学農学部検見川厚生農場（現・東京大学検見川総合運動場）の落合遺跡の二千年以上前の青泥地層からハスの種が三粒発見されました。

その後、大賀一郎博士により一株だけが無事順調に生育し、翌年七月に開花し、「大賀ハス」「古代ハス」と呼ばれるハスの花を咲かせました。

今日ではその子孫が国内および海外百五十箇所以上に分根、栽培され、友好と平和の使者として親しみ愛されています。

二千年の間眠っていたハスの種！二千年の後に突然地表に現れた時、それは当たり前のように発芽するものではなかったでしょう。

大賀先生というご縁に会い、大切に育てられた事により無事本来の発芽という目的を達することが出来たのではないでしょうか。

人間は全ての者が仏性（悟りを開いて仏になる種）を持っていると言われております。

私たちは長い長い六道輪廻の中で今、他力の教えに出会うことが出来ました。

阿弥陀如来は「私は必ずあなたを私の浄土に生まれさせる」「私は必ずあなたを念仏申すものに育て上げて見せる」とおっしゃっているのです。

私たちに「そのまま来いよ」とおっしゃっているのです。

私たちはこのご縁を大切にいただき、阿弥陀様にお任せするしかないのであります。

愛する者とのお別れ。心豊かに生きている方との出会い。健康だと思っていた体に宿った病。くよくよしている自分自身。

偶然のように思える出来事や、様々な出会いは決して偶然ではありません、大切なご縁であります。

しかし、やっと会うことが出来たご縁をご縁と思わず通り過ぎていることがあるとしたら、もったいないことではないでしょうか。

戴いたご縁を大切に育てていきたいものです。

その時の心のありようは、こうして阿弥陀様からいただいたご縁を素直な気持ちで受け取ることでしょう。

阿弥陀如来は全ての者を救うとおっしゃっているのだから、人は何をしても良いのだとたかをくくることではありません。

阿弥陀如来の誓願を知る毎に、自分の愚かさを知る毎に、益々慎み深くなっていきたいものです。

インドご旧跡を巡拝して

古賀明徳 （行信教校在学）

平成二十九年一月三日。 お正月気分に沸く日本を後にして、 行信教校でご指導をいただいている天岸先生が企画された「インドご旧跡巡拝ツアー」に参加させていただきました。

あっという間の十日間でしたが、 そこで感じたことについて述べたいと思います。

インドでは「観無量寿経」に説かれている、 ビンバシャラ王が幽閉された牢獄跡、 釈尊が苦行をされた苦行林、 釈尊に乳粥を与えたスジャータが住んでいたスジャータ村、 お悟りを開かれた地ブッダガヤ、 初めてご説法をされた（初転法輪） サールナート、 釈尊が「無量寿経」をはじめとする数々の教えを説かれた霊鷲山、 インドの宗教が直に感じられるガンジス河、 世界遺産のタージマハール、 仏教美術の宝庫であるサンチー等を巡りました。

いずれの地も目の当たりにすると感動する場所ばかりでした。 その中で特に思い出に残った所のお話を記載致します。

悟りの地ブッダガヤの大きな菩提樹の下に金剛宝座という台座があります。 釈尊はお悟りを開かれるとき、 この座にお座りになっていたと伝えられています。 世界中の仏教徒にとって特別なその場所で、 私たちもお参りをさせていただきました。

印象に残ったのは、 世界各地から、 それぞれの国の仏教徒の装束を身にまとった、 出身地も肌の色も違う方々が熱心にお参りをされていらっしゃったことです。

この大きな菩提樹の下、 今日に至るまで、 数えきれないほど多くの仏道を求められる方々がここに参拝され、 そうした方々のご尽力とご苦労によって、 私のところまで仏法が届いてくださったことを思うと、 大変ありがたいことであると感じました。

また、 霊鷲山に登り、 山頂でちょうど沈んでいく美しい夕日を見ました。 後になって、 私たちが登ってきた林道は、 釈尊が見られたものと同じであるということを知りました。 太陽からは、 世界のどの場所にいても同じ光を浴びることが出来ます。 阿弥陀様の光も、 その光と同じようにどこにいても、 とてもあたたかな光で私たちを照らして下さっています。

ふと、 親鸞聖人はインドに行きたいと想われることはなかったのかと思いました。

仏教の教えを少し学んだ程度の自分でさえ、 インドに一度行ってみたいという思いでこの旅行に参加させていただいたので、 親鸞聖人もインドに行ってみたかったのでは？とも思ったのですが、 親鸞聖人のお書きになったお書物にはインドに対しての想いなどは書かれていません。

思うに、 親鸞聖人にとって日本とかインドとかいった場所へのこだわりはなかったのかもしれません。 どこの地にいても、 この太陽の光と同じように阿弥陀様のお救いの光は届いている、 自分は日本のこの地でご縁を受け、 阿弥陀様の光を頂いたのだから、 それを大切に教化活動を進めようと思われたのではないかと感じました。

今回のインド巡拝で感動したことはまだまだ沢山あるのですが、 それはまたいつかお伝えしたいと思います。

インドに行かせていただいた皆様方とのご縁に感謝いたします。

合掌

[上]菩提樹 [下]旅行のメンバー

【ご法座等のご案内】

3月

3/12（日）
午前十時　定例法座【星野親行師＊】
正午　医療相談【佐藤公彦医師】
＊ご講師　星野親行師
大阪・西法寺住職／行信仏教文化研究所研究員

3/19（日）
午前十時　なかよしクラブ（乳幼児から小学生まで）

3/26（日）
午前十時　彼岸会特別法座・祥月命日合同法要【高田慈昭師】

4月

4/9（日）
午前十時　定例法座【岡本信悟師】
正午　医療相談【佐藤公彦医師】

4/16（日）
午前十時　なかよしクラブ（乳幼児から小学生まで）

4/23（日）
午後一時　定例法座・祥月命日合同法要【高田慈昭師】

本願寺「宗門総合振興計画へのご懇志」を次の方々から賜りました。（平成二十九年二月末日現在）

磯崎貴秀様。北浦雅子様。

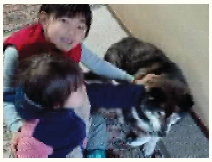
【受付口座】
東京信用金庫　椎名町支店　普通口座　1029981
誓願寺　代表役員　古賀尚之

編集後記

・二月二日は初代岡本泰雄住職の祥月命日であった。昭和六十二年からはや三十一年。もっとお話を伺っていればと皆が思っている。完全ではないが法座でのテープが残っている。今後文章化して、ご報告したいものです。

・久しぶりにナナを貰って頂いた千葉のお宅を訪問した。ナナは家の内外を元気に飛び回っていた。一安心である。リキも相変わらずおとなしく過ごしている。

［初代住職の祥月命日で集まった親族］


［リキと孫ふたり］